

建築文化週間 2025

THEME

流々 転々

Architectural

Culture

Week

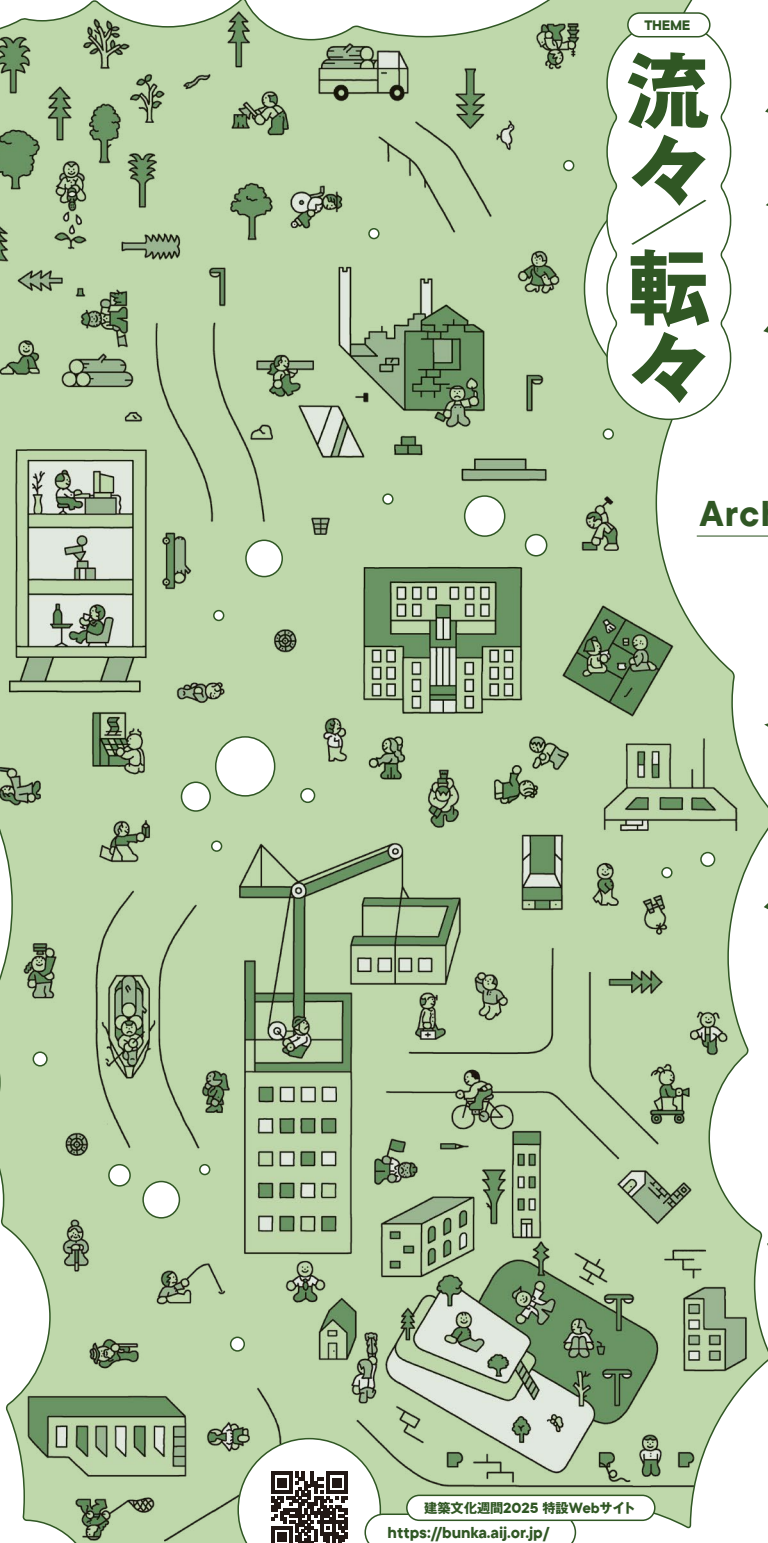
2025

間

協賛 大林組 鹿島 清水建設 大成建設 竹中工務店 梓設計 久米設計 佐藤総合計画 三晃金属工業 東京メトロ 日建設計 日本設計 三菱地所設計 山下設計 NTFアソシエイツ

後援 日本建設業連合会 日本建築家協会 日本建築士会連合会 日本建築士事務所協会連合会

主催 日本建築学会



建築文化週間2025 特設Webサイト

<https://bunka.aij.or.jp/>

2025年9月28日「日」

11月12日「水」

建築会館ホール他、全国各地会場およびオンライン

Timeline



本部企画

建築夜楽校2025

シンポジウム

「都市開発の現在地

——これからのあるべき開発の姿とは」

日時	10月1日〔水〕18:00–20:30（開場17:30）
会場	建築会館ホール（東京都港区芝5-26-20）およびリアルタイム動画配信
登壇者	講演者 大方潤一郎（東京大学名誉教授〔都市計画〕） 東浦亮典（東急総合研究所代表取締役社長） 若林拓哉（ウミネコアーキ代表取締役） モデレーター 山本至（itaru/taku/COL共同主宰）
対象	どなたでもご参加ください。
定員	建築会館ホール 300名（申込先着順） 動画配信 制限なし（事前申込み不要）
参加費	無料
申込方法	建築会館ホール 建築文化週間2025特設Webサイトよりお申し込みください。
視聴方法	動画配信 本会YouTubeチャンネルにて開催当日にご覧ください。 https://www.youtube.com/aijgakkai1886/

昨今、東京では巨大資本による開発が盛んに行われていますが、それとは異なるローカルなスモールスケールの開発も存在します。開発というものが二極化していく現在、これからの都市開発はどのようなものになっていくのでしょうか。

昨今の大規模開発は都市そのものの骨格を変えてしまします。渋谷や港区で現在行われている開発は、その多くが容積率緩和による、床面積の向上を目指した高層ビルによる開発手法であり、渋谷や港区が持っていた猥雑性の消失が懸念されます。一方で、渋谷川の復活やパブリックスペースの充実など、行政が見過ごしてきた都市空間の公共性という問題に切り込んでいるのも私企業であり、ポジティブな側面も多分に見受けられます。神宮外苑や万博跡地も、行政が民間の開発を後押しするように規制緩和を行なっていますが、これは果たしてどのような結末になるのでしょうか。

このような都市開発の現状のなかで、これから求められる都市開発とはどのような姿なのか、都市の専門家たちに伺います。



photo: 東浦亮典

本部企画

建築文化考2025

シンポジウム

「大地と都市——建築と社会の循環／

リジェネラティブな都市としての

未来をさぐる」

日時	10月15日〔水〕17:00–19:45（開場17:30）
会場	建築会館ホール（東京都港区芝5-26-20） 展示-リアルタイム動画配信の実施および終演後に 交流会の開催を調整中。
登壇者	講演者 藤井一至（福島国際研究教育機構ユニットリーダー） 山田宮土理（早稲田大学准教授） 速水亨（速水林業代表／森林再生システム代表取締役） モデレーター 加藤詞史（加藤建築設計事務所主宰） 牛込具之（佐藤総合計画西日本設計本部長・ 未来戦略室室長）
対象	どなたでもご参加ください。
定員	建築会館ホール 300名（申込先着順）
参加費	無料
申込方法	建築文化週間2025特設Webサイトよりお申し込みください。
協賛	スターツ免制震構造研究所（予定）
協力	早稲田大学建築学研究所（予定）

建築のあり方は常に変化し続けてきました。建物は時間の経過とともに変化し、経年、用途、場所の価値などの影響を受けながら、解体、保存・再生の選択を迫られます。これまではスクラップ・アンド・ビルドが主でしたが、環境負荷低減、資源の有限性、文化的価値の観点から、より持続可能なアプローチが求められています。建築の寿命は、用途、構造、材料によって異なりますが、それを決定づけるのは物理的な耐久性だけではなく、経済的な要因、社会的ニーズ、技術革新、デザインなど、建築の変容とともにその価値観は流動的です。特に都市部での建築では、更新を「消費」ではなく「循環」として捉える課題は喫緊で、ペープメントされた地表面、人口減少に伴いスポンジ化が進む都市には、どのような対応が求められるのでしょうか。

わたしたちの生活そのものを支えている「土と大地」に目を向け、近代が考慮してこなかった「壮大な時間」の流れと土や木、生業を題材に、我々の今、建築のこれからを考える機会とします。



photo: 加藤画史

本部企画

建築展覧会2025

「あとち」

期間	10月2日〔木〕–19日〔日〕 10:00–17:00
会場	建築博物館ギャラリー内+中庭 （東京都港区芝5-26-20）ほか
出展者	大野友資（ドミノアーキテツツ代表） 篠田優（明治大学助教） 山崎嵩拓（東京大学特任講師） 森山泰地 出原日向子 森藤文華+葛沁芸（2.5 architects共同主宰） 綱島卓也 キュレーター 川勝真一（建築センター CoAK代表理事） 桂川大（STUDIO O/ おどり場代表） どなたでもご参加ください。
対象	どなたでもご参加ください。
参加費	無料
申込方法	事前申込み不要。直接会場へお越しください。
協賛	建築センター CoAK
備考	会期前・会期中にさまざまな関連イベントを実施予定です。 最新の情報は、建築文化週間2025 特設Webサイトをご覧ください。

万博の跡地問題、空き家やゴーストタウンなど、人がすまなくなった郊外の住宅地、乱獲や伐採によって破壊された自然、巨大資本が囲い込み撤退、荒廃した都市・領土、そして人類がいなくなった後の地球。今や身の回りには、何かをつくり出すための「敷地」以上に、何かの行為や出来事が終わってしまったのちの「跡地」が遍在しています。また、あらゆる場所は何かの跡地でもあるという事実。今こそ跡地から考える必要があるのではないのでしょうか。本展では7組の作家が、作品をはじめ日々の実践を通じて〈あとち〉をいかに立ち上げることが可能か？ について、ともに考え、表現する場を創出します。

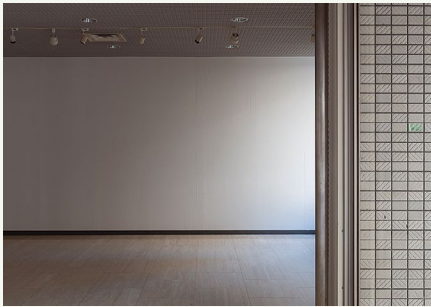


photo: 篠田優

本部企画

カルチベートトーク2025

トークイベント

「人間の価値観を変えたい

——チームラボと境界のない世界(仮)」

日時	10月28日〔火〕18:30–20:00（開場18:00）
会場	建築会館ホール（東京都港区芝5-26-20）およびリアルタイム動画配信（予定）
登壇者	講演者 チームラボ モデレーター 濱野裕司（竹中工務店執行役員）
対象	どなたでもご参加ください。
定員	建築会館ホール 200名（申込先着順） 動画配信 定員制限なし（事前申込み不要）
参加費	無料
申込方法	建築会館ホール 建築文化週間2025特設Webサイトよりお申し込みください。
視聴方法	動画配信 本会YouTubeチャンネルにて開催当日にご覧ください。 https://www.youtube.com/aijgakkai1886/

デジタルアート集団・チームラボは、「チームラボ ボーダレス」との考えのもと、生み出す作品の魅力が人々から愛好され、現在世界各国から、デジタルアート作品制作や展覧会のオファーが舞い込んでいます。最近では、アラブ首長国連邦(UAE)に「teamLab Phenomena Abu Dhabi」を2025年4月18日にオープンし世界中を驚かせ、日本国内においても京都市南区に新たな文化芸術の拠点として、常設のアートミュージアム「チームラボ パイオヴォルテックス 京都」を2025年10月にオープンする予定です。

今回は、その「チームラボ」にご登壇いただき、根底にある哲学や考えから、人々を魅了するアート作品を生み出し続けるデジタルアート集団の仕組み、そして、デジタルテクノロジー、アート、生物学、建築などの境界を越え、新しい時代の都市と自然と人々のありようを模索する集団の「人間の価値観を変える、チームラボと境界のない世界」について語っていただきます。



本部企画

学生ワークショップ2025

ワークショップ

「建築学生の無数のキャリアを考える ——未来を可視化するタペストリー——」

日時	1日目 10月18日 [土] 9:30-19:30 2日目 10月19日 [日] 9:30-19:30
会場	建築会館ホール（東京都港区芝5-26-20）
講師	西田 司（建築家／東京理科大学准教授） 岡啓輔（建築家、大工、ダンサー、セルフビルダー） 田中元子（起業家／グランドレベル代表） 津川恵理（建築家／ALTEMY代表） ナカムラケンタ（実業家、編集者／日本仕事百貨代表） いけちゃん（YouTuber、建築士）ほか モデレーター 松田達（静岡文化芸術大学准教授） コメンテーター 山本至（itaru/taku/COL共同主宰）
対象	建築系の学生／建築関係者／ 建築学科に興味をもつ中高生／一般市民 （当日の様様はどなたでも観覧いただけます。）
詳細	募集概要、参加・観覧方法などの詳細は、 建築文化週間2025特設Webサイトをご 覧ください。
問合せ	学生ワークショップ2025専用アドレス archi.gakusei.ws.2025@gmail.com
実行委員	星野倅嬉（芝浦工業大学大学院） 大崎瑞貴（芝浦工業大学）ほか【2025年6月現在】
学生メンター	二瓶雄太（ALIBA代表／東京大学大学院）

建築を学ぶ学生にとって、将来のキャリアを考えることは容易ではありません。設計、施工、不動産、インテリア、まちづくり、IT、さらには起業や留学など、建築の学びは無数の可能性に接続できますが、就活では可能性を絞り込むことを必要とされます。しかし学生時代こそ、無数のキャリアを横断的に考える貴重なタイミングです。そこで本ワークショップでは、アンケートやインタビューで先人たちの多様な職能や価値観を収集し、学生が主体的に分類・分析・議論を行い、建築を学んだ先の無数の進路や働き方を可視化します。講師や参加者とともに多様なキャリアモデルを探り、可能性を絞るのではなく、つなげて広げる新しいキャリア構築を考えます。自身の未来像を主体的に描き、柔軟に無数の可能性を考えてみませんか？



本部企画

学生グランプリ

公開審査

「銀茶会の茶席」

日時	9月28日[日] 13:30～15:30（開場13:00）
会場	建築会館ホール（東京都港区芝5-26-20）
審査員	審査員長 佃悠（建築文化事業委員会委員長／東北大学准教授） 審査員 本阿彌守光（武者小路千家） 木村知弘（TANGE建築都市設計副社長 チーフビジネスデベロップメントアドバイザー） 山下賢二（三越銀座店長） 田中和和（全銀座会催事委員長） 鵜飼哲矢（九州大学教授） 佐藤淳（東京大学准教授／佐藤淳構造設計事務所主宰） 多田脩二（千葉工業大学教授／多田脩二構造設計事務所代表取締役） 出口亮（大成建設設計本部先端デザイン室 FDL）
対象	どなたでもご参加ください。
定員	20名（申込先着順）
参加費	無料
申込方法	建築文化週間2025特設Webサイトより お申し込みください。
共催	銀座通連合会
協賛	ダイナワン

日本建築学会では年に一度、全国の建築学生を対象とするコンペティション「学生グランプリ」を開催しております。毎年10月に銀座通りの周辺で行われる野点大茶会「銀茶会」で実際に展示・使用する創作茶席の提案を、7月30日[水]を応募締切として募集しました。第一次審査を通過した作品は、応募学生自らが原寸大の茶席を審査会場に制作し、今回の第二次審査で最優秀作品が選定されます。10月に銀座三越にて展示・使用される最優秀作品の選考経過をどうぞご覧ください。

関連企画

銀茶会

「學生創作茶席」

日時	10月26日〔日〕 (詳細は銀座公式Webサイトをご覧ください)
展示期間	10月23日〔木〕－10月27日〔月〕
会場	銀座三越9階 銀座テラス・テラスコート (東京都中央区銀座4-6-16)
主催	銀座通連合会
協力	日本建築学会

Report

建築文化週間「学生ワークショップ」はいつはじまったのか？

30年以上の歴史

1999年6月19日から21日まで建築会館で開催された学生によるワークショップに、筆者も参加していた。参加学生の記録には藤原徹平、西田司、平瀬有人、保坂猛、林要次、吉村昭範、勝矢武之らの名前がある。ゲストは、馬場徹+河合敏明、五十嵐太郎、西沢立衛、アストリッド・クライン+マーク・ダイサム、塚本由晴+貝島桃代、井坂幸恵、岡田哲史と当時30代の気鋭の建築家が並ぶ。同世代の多くの建築学生と出会い議論した貴重な機会だった。

『建築雑誌』によると建築文化週間における学生主体の企画は1999年が6回目で、初回は1994年に遡る。「学生部会」が発足し（西沢高男、日高仁、山代悟らの名前がある）、小嶋一浩、妹島和世、内藤廣をユニットマスターとし、3週間をかけたワークショップが行われた。「お祭り」『戦場』『疲労困憊』という言葉が並ぶので、相当な盛り上がりがあったことだろう。

そこから30年以上、学生ワークショップはかたちを変えて継続してきた。「学生主体」であることと「ワークショップ」であることがこのイベントの核である。また基本的に毎年イベントの構成そのものが、ゼロからつくりあげられてきた。

建築学生の「空気」の可視化

筆者も関わったここ数十年の学生ワークショップのタイトルを挙げると、順に2013「アーキフェス」、2014「Shrinking Japan, Expanding Architecture」、2015「アキスポ」、2016「今を生きるカセツのカタチ」、2017「Learning from the Cities」、2018「建築学生サミット2018秋」、2019「令和元年の建築系研究室」、2021「君とRe: design」、2022「建築学生解体新書」、2023「建築電腦戦——AI×建築学生 最前線」、2024「いま、能登半島地震に対して学生は何を思い、考えるか?」となる(サブタイトル等省く)。端的にキーワードとしてあげれば、茶室/非建築家/スポーツ/避難所/街/平成/研究室/コロナ/コンペ/AI/能登となるだろう。

個々のワードに脈絡はないが、時代の空気を反映もしている。一昨年は生成系AIが一気に成長した年であった。昨年は地震後の能登半島を学生がリサーチし、展示とワークショップを行い、150ページを超えるアーカイブ冊子を制作した。このように見てくると、学生ワークショップは建築学生の周囲のややもとした空気を言語化し、ワークショップを通じて可視化していると言えるのではないだろうか？ そして今年は「キャリア」をテーマとしている。ぜひいまの建築学生の空気が感じられるイベントになってほしい。

[illegible]

『建築雑誌』1994年4月号より

松田達「静岡文化芸術大学准教授」

本部

北海道支部

東北支部

関東支部

東海支部

北陸支部

— 近畿支部

國支部 | 四

九州支部

支部企画 北海道支部

見学会・講演会

「札幌芸術の森の
建築を巡る見学会」

日時	10月19日〔日〕10:00～16:00（10:00～14:00 見学会／14:00～15:30 講演会／16:00 真駒内駅解散）
見学先	藻南公園／ポスト館／石山緑地／有島武郎邸／芸術の森周辺／札幌市立大学芸術の森キャンパス
集合場所	札幌市営地下鉄 真駒内駅 10:00集合 （北海道札幌市南区真駒内17）
解説者	見学会 北海道支部歴史意匠専門委員会委員 有島武郎担当者 地域住民の方
講演者	講演会 奥山健二（日本開発構想研究所客員主幹研究員／名古屋市立大学・福山市立大学名誉教授） 北海道支部歴史意匠専門委員会委員 どなたでもご参加ください。
対象	20名（申込先着順）
定員	無料
参加費	10月3日〔金〕までに、QRコードへの回答、 またはE-mailやハガキにて 「氏名・年齢・所属・住所・電話番号」 を明記のうえ、お申し込みください。
申込方法	
主催	日本建築学会北海道支部
後援	札幌芸術の森／札幌市立大学
申込先・問合せ	札幌市立大学 金子晋也研究室 〒005-0864 北海道札幌市南区芸術の森1 TEL 011-592-2659 E-mail s.kaneko@scu.ac.jp
備考	昼食は各自でご準備いただくか、 「畑のはる」（芸術の森センター 2階）等を 各自ご利用ください。

札幌芸術の森地区は、明治期に土場や採石場として開拓され、豊かな自然と文化が調和する環境を育んできました。本見学会では、地区の形成に関わる建築を巡りながら、皆さんとともに建築文化について考えていきたいと思います。



支部企画 北海道支部

第50回

「北海道建築賞（2025年度）
表彰式・記念講演会」

日時	10月24日〔金〕18:00～20:00
会場	北海道大学遠友学舎（北海道札幌市北区北18条西7）
講演者	北海道建築賞受賞者
対象	どなたでもご参加ください。
定員	50名（申込先着順）
参加費	無料
申込方法	E-mailにて「氏名、所属先、住所、電話番号」を 明記のうえ、お申し込みください。
主催	日本建築学会北海道支部
申込先・問合せ	日本建築学会北海道支部 TEL 011-219-0702 / FAX 011-219-0765 E-mail aij-hkd@themis.ocn.ne.jp

2025年度第50回北海道建築賞を受賞された方々に、受賞作品を語っていただき、その後パネルディスカッションを開催いたします。



photo:小澤丈夫

支部企画 北海道支部

ワークショップ

「くしろ防災屋台村」

日時	11月1日〔土〕10:00～16:00
会場	釧路市こども遊学館（北海道釧路市幸町10-2）
対象	どなたでもご参加ください。
参加費	無料
申込方法	事前申込み不要です。 ただし、共同開催先の都合により 中止・延期の場合がございますため、 事前に開催状況をお問合せください。
主催	日本建築学会北海道支部
共催	北海道釧路総合振興局ほか
問合せ	日本建築学会北海道支部都市防災専門委員会 高井伸雄 TEL 011-706-6254 E-mail tki@eng.hokudai.ac.jp

釧路総合振興局が開催する「くしろ安心住まいフェア」にて、北海道支部都市防災専門委員による子どもや地域住民を対象とした「くしろ防災屋台村」を開催し、建築の揺れ方や構造をわかりやすくお伝えします。建築文化への関心をぜひ高めてください。



支部企画 東北支部

第35回

「東北建築作品発表会」

日時	10月4日〔土〕10:00～16:00 予定
会場	オンライン（Zoom）
発表資格	第46回東北建築賞作品賞の応募者
発表部門	発表部門は次の2部門とする。 小規模建築物部門 延べ床面積500平方メートル未満の建築物を対象 一般建築物部門 延べ床面積500平方メートル以上の建築物を対象 どなたでもご参加ください。
対象	60名（申込先着順）
定員	無料
参加費	日本建築学会Webサイト「催し物・公募」欄より お申し込みください。
申込方法	日本建築学会東北支部 日本建築学会東北支部 〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1-5-15 日本生命仙台勾当台南ビル4階 TEL 022-265-3404 FAX 022-265-3405 E-mail aij-tohoku@mtb.biglobe.ne.jp

東北地方における優れた建築活動を広く人々に知っていただくとともに、それを記録し、設計者や建築関係者の相互の研鑽の場として、東北地方の建築における共通課題を探索します。また、本発表会での発表ならびに質疑は、東北建築賞作品賞の第一次審査の対象といたします。

支部企画 関東支部

見学会

「シリーズ名作をみる
——国立代々木競技場
第一体育館・第二体育館」

日時	10月6日〔月〕14:30－17:00（受付14:00－）
見学先	国立代々木競技場 第一体育館・第二体育館 （東京都渋谷区神南2-1-1）
講師	豊川斎赫（千葉大学准教授）
対象	どなたでもご参加ください。
定員	60名（申込先着順）
参加費	2,000円
申込方法	関東支部Webサイトをご覧ください。 お申し込みください。 http://kanto.aij.or.jp/
主催	日本建築学会関東支部
協力	国立代々木競技場世界遺産登録推進協議会
問合せ	日本建築学会関東支部 TEL 03-3456-2050 E-mail kanto@aij.or.jp

今回は、国立代々木競技場をご紹介します。国立代々木競技場は、1964年の東京オリンピック開催のために建てられました。吊り屋根構造が美しい、建築家・丹下健三氏の代表作です。2021年に国指定重要文化財に指定され、現在世界文化遺産への登録を目指した活動も行われています。貴重な機会ですので、奮ってご参加ください。

支部企画 関東支部

構造デザインフォーラム2025

第30回

「若きエンジニアの構造デザインはいま
——大阪・関西万博2025をめぐって」

日時	11月12日〔水〕15:00－18:00
会場	建築会館会議室（東京都港区芝5-26-20）および オンライン
登壇者	講演者 構造設計者／構造家／構造エンジニア（4名程度） モデレーター 斎藤公男（日本大学名誉教授） 司会・主旨説明 小倉史崇（竹中工務店／設計WG主査）
対象	どなたでもご参加ください。
定員	建築会館会議室 60名（申込先着順） オンライン 80名（申込先着順）
参加費	会員1,000円、会員外1,100円、 学生（会員）500円、学生（会員外）550円
申込方法	関東支部Webサイトをご覧ください。 お申し込みください。 http://kanto.aij.or.jp/
主催	日本建築学会関東支部構造専門研究委員会
問合せ	日本建築学会関東支部 TEL 03-3456-2050 E-mail kanto@aij.or.jp

1995年にスタートした構造デザインフォーラム（Structural Design Forum: SDF）は今年で30回目を迎えます。SDFは、建築文化事業の一環に位置付けられており、例年、「アーキエアリング・デザイン（AND）展」との連携を計りながら企画しております。

今年度のSDFは、「若きエンジニアの構造デザインはいま——大阪・関西万博2025をめぐって」と題して開催いたします。構造関連の受賞経験のある技術者や話題のプロジェクトを担当しているエンジニアにご講演いただき、設計した建築作品を通じて構造設計の魅力をお伝えします。また、AND展と連携し、建築と技術の融合が空間にどのように貢献したのかという視点も含めてご講演いただきます。

上記のような視点での講演後、パネルディスカッションにて建築・空間・形態・構造の関係性、構造システムの発展などについて議論いたします。

支部企画 東海支部

見学会

「建築ウォッチング——モダニズム
建築群の改修からこれまで」

日時	11月8日〔土〕13:00－15:00
見学先	南山大学（愛知県名古屋市中昭和区山里町18）
集合場所	申込締切日以降に参加申込者へ連絡予定
対象	一般（小学校以下は保護者同伴）
定員	30名（申込先着順）
参加費	無料
申込方法	10月3日〔金〕までに、 東海支部Webサイトの専用申込フォームから お申し込みください。 https://tokai.aij.or.jp/ 日本建築学会東海支部事業委員会 日本建築学会東海支部 「建築文化週間 建築ウォッチング」係 E-mail tokai-sibu@aij.or.jp FAX 052-201-3601
主催	
問合せ	

南山大学において、当初のマスタープランを活かして建物を解体せずに行われた改修は「南山大学におけるモダニズム建築群の保存再生と大学キャンパスの成長デザインへの取り組み」として2024年日本建築学会賞（業績部門）を受賞しました。

2017年から2021年に「レーモンド・リノベーション・プロジェクト」として進められた改修工事が行われて4年、南山大学の方々に、「自然を基本にして」というレーモンド氏の設計思想が利用者にどのような印象を与えてきたのかをお伺いし、当時の設計者からの解説も交えながらキャンパスを見学いたします。是非、ご参加ください。



支部企画 北陸支部

とやまたてもの探偵団2025

見学会

「能登半島地震復興プロジェクトの見学」

日時	10月4日〔土〕10:00－16:00（現地集合、現地解散）
見学先	石川県輪島市／ 大崎漆器店コミュニティ BASEうるしばら／ 本町地区／谷川醸造醤油蔵ほか
講師	森本英裕（レトロフィット） 山本周（山本周建築設計事務所）ほか
対象	現地集合が可能な方（小・中学生は保護者同伴）
定員	20名（申込先着順）
参加費	実費
申込方法	9月19日〔金〕までに電話もしくはE-mailにて、 「氏名、所属先、連絡先（TEL、FAX、E-mail）」を 明記のうえ、お申し込みください。
主催	日本建築学会北陸支部富山支所
申込先・問合せ	富山大学 芸術文化学部 萩野紀一郎 TEL 090-9841-8968 E-mail kbhagino@gmail.com
備考	被災地の状況次第では、見学場所、スケジュール、 参加費に変更が生じる場合がございます。 あらかじめご了承ください。

2024年1月の能登半島地震は、能登だけでなく北陸地方の広範囲に、多大な被害をもたらしました。まだまだ一部では緊急事態が続いていますが、人命やインフラの確保を最優先とする緊急事態から、くらしや生業をどうすべきかを考える時期となり、公費解体が進行し、修復や再建の計画も少しずつ動き始めています。

今回は、輪島市とその周辺で展開中の修復や再建プロジェクトの現場を視察し、建築・街並みや地域の保存や再生について考えます。



本部

北海道支部

東北支部

関東支部

東海支部

北陸支部

近畿支部

中国支部

四国支部

九州支部

支部企画	北陸支部
見学会 「 輪島市黒島地区を巡る ——能登半島地震の被害と復興——」	
日時	10月25日〔土〕13:30～（1.5～2時間程度）
見学先	石川県輪島市黒島町
解説者	吉村寿博（吉村寿博建築設計事務所）ほか
対象	現地集合が可能な方（中学生以下は保護者同伴）
定員	20名（申込先着順）
参加費	無料
申込方法	10月20日〔月〕までにE-mailにて、 タイトルに「2025年石川支所見学会申し込み」、 本文に「氏名、所属先、連絡先（TEL、E-mail）」を 明記のうえ、お申し込みください。
主催	日本建築学会北陸支部石川支所
申込先・問合せ	石川工業高等専門学校 建築学科 小川福嗣 E-mail ogawa@ishikawa-nct.ac.jp

輪島市門前黒島町は、北前船の船主や船員の居住地として発展した能登天領の集落であり、最も栄えた明治初期の地割を良好に残し、下見板張りや黒瓦が特徴的なまちなみが残っており、重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、2024年1月に発生した能登半島地震では、黒島町でも甚大な被害をもたらしました。本見学会では、黒島町を歩きながら、現地をよく知る方に解説案内していただき、その被害状況および復興状況、将来に向けての取り組みなどについて学びます。



支部企画	北陸支部
講演会・見学会 「 新幹線開業後の福井市中心市街地の エリアリノベーションの可能性 」	
日時	10月25日〔土〕13:00～20:00（13:00～15:10 講演会／ 15:20～17:20 見学会／18:00～20:00 懇親会）
会場	講演会 Luff（福井県福井市順化1-15-29 3F） 見学先 新栄地区（コノジナガヤ含む）／ 再開発エリア／浜町／福井城址周辺ほか 懇親会 PLAYCE（福井県福井市中央1丁目3-5 FUKUMACHI BLOCK 1F）
登壇者	講演者 原田陽子（福井大学教授） 野田明宏（KISUI SEKKEI代表） 高橋昌裕（NIEN代表） 高野麻実（RIPEN代表） 高岡勇治（ピンタイ代表）＋ 高橋駿介（LIGHT HOUSE共同代表） コーディネーター 真野洋介（東京科学大学教授） どなたでもご参加ください。
対象	50名（申込先着順）
定員	50名（申込先着順）
参加費	無料（懇親会の参加者は4,000円、学生割引あり）
申込方法	9月20日〔土〕までにE-mailにて、タイトルに「2025 福井支所講演会申込」、本文に以下の①～④を 明記のうえ、お申し込み下さい。 ①氏名／②所属先（学生の場合は学年を記載）／ ③連絡先（TEL、E-mail）／④参加希望内容 （a.講演会、b.見学会、c.懇親会）
主催	日本建築学会北陸支部福井支所
申込先・問合せ	福井大学 工学部 建築・都市環境工学科 原田陽子 E-mail y-harada@u-fukui.ac.jp

福井市中心市街地の新栄地区では、2025年3月末に共同リノベ物件「コノジナガヤ」がオープンし、今後の小規模連鎖型での更新が期待されていますが、福井市中心市街地では、新栄地区以外にも、再開発エリア、城址周辺、浜町など、特徴的な地区があり、こうした地区では、課題を抱えつつも、近年、興味深い事例や活動が見られます。

そこで本講演会では、全国各地で地域資源を活かしたエリアリノベーションに取り組まれており、新栄地区での小規模連鎖型更新に関わっていただいた真野洋介氏と野田明宏氏とともに、福井市中心市街地で創造的な活動を行っている方々をお招きして、新幹線開業後の福井市中心市街地のエリアリノベーションの可能性について考えます。



支部企画	近畿支部
近代建築見学会およびシンポジウム 「 根津耕一郎設計 万博記念ビル （旧日本万国博覧会記念協会本部ビル）」	
日時	10月17日〔金〕13:00～16:30
見学先	万博記念ビル（大阪府吹田市千里万博公園1-1）
会場	シンポジウム 国立民族学博物館第5セミナー室 （大阪府吹田市千里万博公園10-1）
解説者	見学会 根津耕一郎（建築家） 笠原一人（日本建築学会近畿支部近代建築部会主査／ 京都工芸繊維大学准教授）
講演者	シンポジウム 根津耕一郎（前掲） 笠原一人（前掲） 花田佳明（京都工芸繊維大学特任教授） どなたでもご参加ください。
対象	どなたでもご参加ください。
定員	50名（申込先着順）
参加費	無料
申込方法	近畿支部Webサイト、FAXまたはE-mailにて、 「氏名、所属先、連絡先（TEL、FAX、E-mail）」を 明記のうえ、お申し込みください。
主催	日本建築学会近畿支部近代建築部会
申込先・問合せ	日本建築学会近畿支部事務局 TEL 06-6443-0538 / FAX 06-6443-3144 E-mail aij-kinki@kfd.biglobe.ne.jp 近畿支部Webサイト http://kinki.aij.or.jp/

近々解体が予定されている大阪府吹田市の万博記念ビル（旧日本万国博覧会記念協会本部ビル／根津耕一郎設計／1969年竣工）について、設計者である根津耕一郎氏（1933-）をお招きして、建物の見学会およびシンポジウムを開催します。

万博記念ビルについては、1967年9月締切で開催された「日本万国博覧会本部ビル設計競技」により、根津氏（当時34歳）の設計案が「最優秀作品」に選ばれました。それを根津氏が大きく変更した設計案で建設され、1969年に竣工したことになります。同ビルは、1970年の大阪万博後も長年にわたり使用され、現在も竣工当時の様子を残しています。しかし、万博記念公園駅前を敷地として1.8万人を収容可能な大規模なアリーナ施設が建設されることになり（2030年開業予定）、解体されることが決まっています。

今回は、解体を前に、今年92歳となる設計者の根津氏をお招きして同ビルの見学会を開催するとともに、1970年の大阪万博のことを中心にお話を伺います。また現在、根津氏についての書籍を制作中である花田佳明氏と笠原一人氏にも参加いただき、根津氏の仕事を振り返る予定です。



支部企画	中国支部
講演会 「 地震への備えと構造 」	
日時	10月4日〔土〕14:00～16:30
会場	TKPガーデンシティ PREMIUM広島駅前5階 カンファレンスルーム5A （広島県広島市南区大須賀町13-9）
講演者	三浦弘之（広島大学教授）ほか
対象	どなたでもご参加ください。
定員	40名（申込先着順）
参加費	無料
申込方法	中国支部Webサイトの専用フォームから お申し込みください。 https://chugoku.aij.or.jp
主催	日本建築学会中国支部構造委員会
問合せ	呉工業高等専門学校 建築学科 松野一成 E-mail matuno@kure-nct.ac.jp

今後30年以内に80%以上の確率で発生するとされている、南海トラフを震源とする超巨大地震に対してはできる限りの備えが必要です。公共建築物は社会インフラの耐震化を進めていますが、果たして十分といえるのでしょうか。地震に対する備えが十分でなかった場合どのようなことが起こるのか、その事例を含めて紹介し、今後の建築構造のあり方について幅広く検討する機会とします。



重要文化財建築探訪

「時をつなぐ湯の記憶
——道後温泉本館保存修理の舞台裏——」

日時	10月4日〔土〕13:30～16:00
会場	宝厳寺本堂（愛媛県松山市道後湯月町5-4） パネリスト 梅津秀基（文化財建造物保存技術協会） 長井健（愛媛県美術館） 野本健（建築士） コーディネーター 花岡直樹（愛媛県建築士会副会長、 愛媛県建築士会ヘリテージマネージャー協議会会長）
対象	どなたでもご参加ください。
定員	80名（申込先着順）
参加費	無料
主催	日本建築学会四国支部愛媛支所
後援	愛媛県／愛媛県建設業協会／愛媛県建築士会／ 愛媛県建築士事務所協会／ 日本建築家協会四国支部愛媛地域会 日本建築学会四国支部愛媛支所〔橋亮／青木太郎〕
申込先・問合せ	〒790-8570愛媛県松山市一番町4-4-2 愛媛県出納局審査課工事検査室内 TEL 089-912-1000（内線6041） E-mail aij_sc_eb@yahoo.co.jp （Googleフォームによる申込を調整中。最新の情報は、 建築文化週間2025 Webサイトをご覧ください。）
備考	道後温泉本館の見学会を、同日10:00～12:00に 実施いたします。参加を希望される際は、 上記の申込先までお申し込みください。 （事前予約制、定員20名、要入館料）

1994年（平成6年）に現役の公衆浴場として全国で初めて国の重要文化財に指定された道後温泉本館は、6年にわたる保存修理工事が完了し、2024年（令和6年）7月に全館営業が再開されました。

道後温泉本館は、道後湯之町初代町長・伊佐庭如矢氏が100年前も真似のできない建物を、との信念で建てられ、今日まで興隆し、親しまれ、使い続けられてきました。

あらためて、道後温泉本館の歴史的背景を捉えつつ、歴史的価値や意匠的に優れる当建物を学ぶことで、「130年の歴史を未来へ紡ぐ」標しとなるよう、更なる100年先にも愛される道後温泉本館の魅力に触れていただきたいと思います。



見学会

「沖縄の近代コンクリート建築物
からみる建築文化と継承」

日時	10月25日〔土〕9:00～17:30
見学先	大宜味村役場旧庁舎／今帰仁中央公民館／ 名護市庁舎
集合場所	沖縄都市モノレール てだこ浦西駅 （沖縄県浦添市前田3-22）8:30集合
解説者	清水肇（琉球大学教授） 崎原康平（琉球大学教授） 根路銘安史（アトリエネロ）
対象	どなたでもご参加ください。
定員	30名（申込先着順）
参加費	無料
申込方法	9月26日〔金〕17:00までに、申込用Googleフォーム より、「氏名、所属先（勤務先学校）、所属先住所、 TEL、E-mail」を入力のうえ、お申し込みください。
申込先	申込用Googleフォーム
	
主催	日本建築学会九州支部沖縄支所
問合せ	琉球大学工学部工学科建築学コース 崎原康平 E-mail sakihark@cs.u-ryuku.ac.jp

沖縄県は、日本国内で最も鉄筋コンクリート（RC）建築物が多く普及している地域です。その背景には、台風や塩害といった厳しい自然環境への適応、戦後復興期の米軍統治下での建築技術の導入、そして地域の歴史文化が深く関係しています。これらのコンクリート建築物は、沖縄の文化や社会を反映し、地域住民の記憶に刻む重要な資産です。

本見学会では、沖縄の近代コンクリート建築物を通じて、地域に根差した建築文化を再発見し、これらの建物がどのように時代を超えて受け継がれているのかについて、「歴史的背景の理解」、「建築文化の再発見」、「保存と継承の取り組み」を中心に学ぶ機会を提供します。

対象のコンクリート建築物として、大宜味村役場旧庁舎や今帰仁村中央公民館および名護市庁舎など、沖縄の特徴的な近代コンクリート建築物を見学し、建築の保存や活用について関心を深めていくことを期待しています。



Report

看取り、舞台、元気がつながるこれからの社会

加藤詞史「加藤建築設計事務所主宰」

建築文化考2024「自分らしさがひらくこれからの社会」は、近代社会が追求してきた効率性や利便性をもたらした快適な生活の一方で、社会的なつながりや共助が希薄化している現状への問いかけである。「自分らしさ」という個人の発露が、社会や地域との新しいつながりをどう再構築し得るのか、その可能性を探ることが焦点となった。

栗生はるか氏は、幼少期に神田祭で見た道路が人々の集う空間に変わる光景に感銘を受けたことを契機に、公共空間へ関心を深めた経験を語った。その後、地域の記憶や文化を未来に引き継ぐ「町継ぎ」活動を展開、廃業した銭湯の部材を再利用した「銭湯山車」をうみだす。山車巡行イベントを通じ、失われた地域の記憶を住民と共有、つながりを再生する取り組みを、場づくりとともに進めている。

若狭で活動する時岡壮太氏は、空き家をシェアオフィスや宿泊施設に改修、地域再生を目指している。地域資源を活用した加工食品の開発、観光資源としての「熊川トレイル」の整備を進め、地元住民との協働を通じて文化と自然を融合させる持続可能な発展を模索。若狭地方の課題を「課題先進地」とし、地域特有の文化や自然を生かした新しい価値創造の可能性を提起した。

出雲を拠点に「コミュニティナース」を推進する矢田明子氏は、住民の力を引き出し、それを地域全体の活力へとつなげる取り組みを紹介。空き家を再生し、住民が自由に集まり得意なことを発揮できる「みんなのお家」を展開。「元氣」をキーワードに、コミュニティナースが地域に目配りすることで、エリア全体の健康度を高め、地域のポテンシャル向上を目指していると力強く語った。



ギャラリートーク：左から栗生、時岡、矢田の三氏

ディスカッションでは、「舞台」と「居場所」という視点から地域社会の再生について議論が交わされた。時岡氏は住民が得意なことを発揮できる「舞台」の提供の重要性を訴え、矢田氏は空き家や旧公共施設を活用した「居場所」が地域基盤を支える役割を果たすと強調。栗生氏は、銭湯や喫茶店などが担ってきた場所の価値を再評価し、地域住民の感覚や意識を引き出す新たな仕組みの必要性を提起した。さらに、不完全さや余白が人々の助け合いや物語を生む可能性についても言及、歴史的環境が持つ不完全さが人々の関係性を深めると指摘した。時岡氏は地方特有の課題を新たな価値創造の契機として捉える視点を示し、最後に矢田氏は、地方だけでなく都市部の人々の活力を引き出すことで、社会全体が支え合い輝ける未来を目指す重要性を述べた。

地域の力を引き出すためには「舞台」や「居場所」といった心の拠り所となる拠点と支え合う仕組み構築の重要性が明らかになった。「自分らしさ」が自然に地域や社会とのつながりを再構築すること、そのプロセスは持続可能な社会の形成に向けた重要な手がかりとなるだろう。

建築文化考2024	
登壇者・出展者	会場
栗生はるか（せんとうまち代表理事／文京建築会ユース代表）	建築会館ホール＋ 建築博物館ギャラリー
時岡壮太（DEKITA代表取締役）	モデレーター 加藤詞史（加藤建築設計事務所主宰）
矢田明子（CNC代表取締役）	牛込具之（佐藤総合計画第1オフィスディレクター）
会期	特別協賛 株式会社 オカムラ キハラ株式会社 株式会社 天童木工 日本ファインリング株式会社
展覧会 10月3日〔木〕～14日〔月・祝〕	
シンポジウム 10月9日〔木〕17:30開場	
銭湯山車巡行 10月14日〔月・祝〕15:30～	



銭湯山車巡行の際に港区町会と交流

いつの間にか立ち上がる祭典、空から撃たれ失われていく街。

日々更新され続けるSNSのタイムラインのように、

不確かな速さで変わり続ける地球を改めて考える動きが広がっています。

一方で、長い時間をかけて育まれていく地上、すでに生きている文化や自然のエコロジー、
静止したように見える地球規模の緩やかな変容に向き合うこともあります。

わたしたちの外で変わりゆく／変わりゆかないものに付き添い、どのように伴走しうるのか？
その試みについて改めて考えるべきではないでしょうか。

そこで建築文化週間2025では、日々変化する速さに伴っておこなう建築の試みに着目し、
ひと月に渡って全国各地でシンポジウムや講演会を9企画、展覧会を1企画、
ワークショップを3企画、見学会を7企画開催します。
皆さまのご参加をお待ちしています。



建築文化週間2025 特設Webサイト

<https://bunka.aij.or.jp/>